

④株式会社大隅芝園



視覚に訴えて意識づけするようにしています」と話してくれました。また、安全運転管理者の中津川輝人さんは、「毎朝の朝礼で、前日のヒヤリハット事例を紹介するなどして情報を共有、自分の事として考えてもらっています。他にも、交通安全週間には会社周辺にのぼりを立てたり、登下校の子どもの姿を見かけた時は一層注意するようにしています。また、運転前の車両点検など出発前に注意しなくてはならないことも多く、安全に万全はないと考え、常に注意しています」と同社の取り組みを紹介してくれました。今後も地域の安全のために、引き続き大きく貢献していただきたいと思います。

交通事故防止は貴方が主役です

第4回は、有明町野神の株式会社大隅芝園です。同社の従業員数は22人で、芝生の生産・管理・販売のほか、近年の多様なニーズに応え、農作物の生産にも取り組んでいます。車両の保有台数は20台を超え、そのほとんどが作業用のトラック、ダンプなどで、常に交通安全には気を配っているそうです。「畑から畑への移動が多いので、農道などの狭い道に大きな車が入る時の路肩での転倒が怖い。さらに見通しが悪いところも多いので気を遣います。」と話すのは代表取締役社長の徳重城二さん。「朝、5分早く家を出るなど、行動に余裕を持つよう話をしていきます。また目に付くところに安全に関するシールを貼るなど

交通事故状況 平成24年5月末現在

区分	発生件数	死者	傷者
県下	3781 [-198]	27 [-5]	4538 [-339]
志布志市	73 [-10]	2 [-1]	97 [-10]
志布志地区	42	1	51
有明地区	30	1	45
松山地区	1	0	1

※【 】は昨年比

年金情報

市役所	47411111 (内116)
志布志支所	47211111 (内23)
松山支所	48712111 (内22)

■Pension information

退職（失業時）の特例免除制度

免除申請する年度、またはその前年度に退職（失業）した方は、特例免除制度を利用できます。この特例免除では、ご本人の所得の状況を除外して審査が行われます。ただし、配偶者、世帯主に一定以上の所得があるときは免除が認められないことがあります。手続きに必要なものは、①年金手帳など基礎年金番号がわかるもの、②認め印（本人が署名する場合は不要）、③失業していることを確認できる公的機関の証明の写し（雇用保険受給資格者証、離職票等）となっています。

被扶養配偶者の方

厚生年金加入者の20歳以上60未満の被扶養配偶者の方は、配偶者の退職（失業）によって、第3号被保険者から第1号被保険者にかわり、保険料の納付義務が生じます。この被扶養配偶者だった方も、配偶者の方が右の退職（失業）時の特例免除に該当すれば、同時に免除申請をすることによって、免除が認められることになっています。

障害基礎年金（二十歳前障害）を受給している方へ

現在「国民年金受給権者所得状況届」（ハガキ）提出の案内が届いていると思います。7月末日までに市役所年金係へ提出をしてください。

受給権者の欄に本人が必要事項を記入します。本人が記入できない場合は代理人が記入し、代理人署名欄にも記入します。

診断書の提出が必要な方は病院で診断書を作成してもらいます。提出期限までに現況届の提出がない場合又は、所得申告がされていない場合、年金の支払いが停止することもあります。

この届出は、引き続き年金を支給すべきか決定する年に1度の大切なものですので、必ず提出してください。



市長コラム 本田修一 「茶一杯」で日本一に！

昨年の1月、NHKの番組で、静岡県掛川市が「日本で一番、がんの発生率が低いまち」として紹介されました。同市は鹿児島県と比較して4倍の量の緑茶を飲むということで、このことが低いがん発生率につながっているのではないかとテレビで紹介されました。

私はその番組を見ても、同市を訪れたいと考えたところですが、直後に東日本大震災が発生し、静岡県のお茶が原発の被害に遭い、行く機会を失ってしまいました。しかし、1年経ち、原発災害の影響も落ち着いた今年の5月に、訪れることができました。テレビでの紹介のとおり、同市では、小さい子どもから高齢の方まで緑茶を飲む習慣が根付いているように感じました。

緑茶の多飲によりがん発生率が低くなるということを、疫学的に証明するための取り組みである「掛川スタディ」が、農林水産省の委託事業として平成21年から約3年間実施されました。今後この試験の結果を踏まえて、さらに、10年、20年という長い期間をかけて追跡調査をして、お茶の多飲という風習が人の健康に役立つということの証明がされようとしています。

本市では、日本一作りの一つとして「健康づくり日本一」を掲げています。平成21年度から本格的に取り組んでいますが、その成果がだんだんと実を結



都城市、三股町、曾於市、志布志市で形成する「都城広域定住自立圏」。この圏域の活性化に向けた取り組みや魅力を、各市町の広報紙にシリーズで掲載します。今回は曾於市を紹介いたします。

都城広域定住自立圏は、都城島津家とのつながりや都城県の設置など、歴史的背景や経済圏を共有しながら培われてきた圏域です。こうした圏域内にある曾於市が誇る勇壮で華麗な、時にはひっそりと未来へ伝えていきたい美しい情景などを紹介します。

◆弥五郎どん祭り

900年以上の伝統を持ち、毎年11月3日に開催される弥五郎どん祭り。身の丈4m85cmの大男が、市街地を威風堂々と練り歩く浜下りは圧巻です。都城山ノ口町の野正八幡宮の弥五郎どんと兄弟ともいわれています。



威風堂々「弥五郎どん祭り」

◆住吉神社の流鏝馬

豊年を感謝して奉納される末吉町住吉神社の流鏝馬。秋深まる11月23日に、神社の参道約300mを馬が勢いよく疾走し、馬上から鎌倉時代の巻狩姿の射手が途中3カ所の的を射抜く古式ゆかしい伝統行事です。矢が的に当たるほど翌年は豊年といわれています。



住吉神社豊祭「流鏝馬」

◆溝ノ口洞穴

霧島山系の湧き水が浸食し、数千年の長い年月をかけて作られた全長224mの溝ノ口洞穴。今も地下水がこんこんと湧き出ていて、神秘的な洞穴です。毎年4月の溝ノ口岩穴祭りでは、奴踊りや刀踊りなどが奉納されます。



溝ノ口岩穴祭り（奴踊り奉納）

問い合わせ 曾於市企画課

☎0986・76・8802